

第105回 中央教育審議会総会での主な御意見（未定稿）

- 大人の学習能力は、想定されているものよりも高く、トレーニングして維持できる。高齢者の活力の保持という観点からも非常に大事なことであり、多様な学習を評価するシステムを一步でも二歩でも前に進めることが大事。

- 「次世代の学校・地域」創生プラン等々の実現のためにも、大人の学習活動をきちんと位置付けることで子供の学習活動をサポートしていくということが非常に求められている。

- 学びのプラットフォームは、女性の再就職の面でも非常に大事。女性の再就職のボリュームが大変増えているので、それを受け入れる側の企業にとっても、その方が何を習得されている方なのかというようなことが明確になるという意味で非常に大事なシステムだと思う。
この諮問の範囲ではないかもしれないが、これを企業にどう活用してもらうのかというような観点は入っていくのか。こうした取組は海外だとどのように企業が活用しているのかという事例があると、企業は非常に参考にしやすい。

- 大人と子供と一緒に学ぶということを、しっかりこの機会に答申として作っていくと良い。検定試験は、同じ試験を子供も大人が受検する場合もある。そういうものを一緒に学び合うようになれば、地域と家庭が何か結び付いてくる教育の中から出てくるのかなという感じがするので、子供という視点を是非軽視しないよう、答申の中に入れていただきたい。

- 「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会」と同時に諮問されているように、そもそも論でオーバーラップしている部分がある。冒頭のそもそも論のところ、互いに1行か2行、言及してはどうか。例えば、生涯学習であれば、いろいろな選択肢がある中で、社会人の学び直しにおいて、学生が新しい大学種に行く、新たな職業大学については別途議論しているが、ここではそのほかの部分について議論するというような形でまとめてはどうか。